

## ◆ 「家庭教育支援者ネットワーク形成講座」事業

### 1 自治体・団体名：青森県，総合社会教育センター

### 2 自治体・団体の概要

当センターでは，社会教育の充実振興を図り，県民の生涯にわたる学習意欲の高揚と学習活動の進展に資するため，市町村及び関係機関・団体と連携しながら，調査・研究と学習事業・教材開発，職員・指導者研修事業，学習情報提供・相談事業，学習機会提供，施設提供事業を総合的に実施している。

### 3 地域の特徴

本県では，「家庭教育インストラクター養成講座（平成14年度～16年度）」，「父親を考えるフォーラム（平成9年度～15年度）」，「家庭教育支援者ネットワーク形成講座（平成17年度～19年度）」，「すこやか子育てあおもりネット事業（平成17年9月～）」，「家庭教育支援総合推進事業（平成16年度～）」など，家庭教育推進に関して学習活動支援や指導者養成を目的とした事業を実施している。

また，県内11市町村17か所に子育てサポーターが配置され，親を対象とし，子どもの発達段階に応じた講座を開催し，また，子育てに不安や悩みを抱え孤立しがちな親等が気軽に相談したり，子育て情報を入手できるよう，ITを活用した家庭教育の手法を取り入れる等，きめ細かな家庭教育支援が展開されている。

今後，地域全体で親子の「学び」や「育ち」を支える環境づくりのためにも県内の子育て支援者同士のネットワークの形成や，ネットワークを活かした家庭教育支援活動の充実が必要である。

### 4 連携の取組状況

#### ① 連携に至るまでの経緯等

平成14年度から平成16年度までの3か年にわたり実施した家庭教育支援者養成を目的とした「家庭教育インストラクター養成講座」を受け，修了生から「実際の活動は難しい。地域で家庭教育支援を行っている人たちのネットワークができると，より一層活動が活性化していくのではないか。」という意見等が出された。

さらに少子化問題，地域社会の人間関係の希薄化など，社会の変化に伴う価値観の変化を背景に子育て環境が著しく変化してきており，親の育児への不安や自信喪失，児童虐待など様々な問題が生じているのが現実である。

そこで，子どもたちの成長に関する問題を地域の課題として捉え，子どもたちとかかわる様々な機関や関係者が，連携しながら支援していくことが大切であると考えた。

そのため，家庭や地域の教育力向上はもちろん，地域ごとの家庭教育支援者のネットワークを形成し，活動を充実させることが重要であると考え，平成17年度

より「家庭教育支援者ネットワーク形成講座」がスタートした。

## ② 連携した取組の具体的内容・方法・実施状況

### (1) 内容・方法

#### a 趣旨

家庭教育支援を行っている人等を対象に、家庭教育支援やネットワークに関する専門的・実践的な研修を行い、より一層、連携・協力して活動ができるような人材を育成するとともに、家庭教育支援者のネットワークの形成を図る。

#### b 講座計画

- ・ 期間 7月～11月の18日間
- ・ 時間 108時間（6時間×18日）このうち公開講演・公開講座は5日間

#### c 内容

家庭教育支援に関する学習，ネットワークのための学習，協働で活動することに関する学習，県内の家庭教育支援者及び各関係機関等との交流を含めた学習

### (2) 開始年度

平成17年度

### (3) 対象

家庭教育支援を行っている人等 50名程度  
公開講演・公開講座（県民対象）



### (4) 実施状況 平成18年度簡易要項

【1日目】 7/7 (土) ※公開講演① [武道館]	9:30 ～ 受 付	10:00 ～ 開講式 オリエンテーション	10:30～12:00 子どもの育ちゆく土壌と 新しい風 【公開講演①】 大阪人間科学大学大学院研究科 教授 服部 祥子	昼 食	13:00～ アイスブ レイク	14:00～15:50 現代の子どもをどう 捉えるか 【グループ討議】	～16:10 研修の まとめ
【2日目】 7/8 (土) [武道館]	受 付	9:40～ オリエンテーション	10:00～12:00 児童虐待とCAP 【講義・演習】 北海道CAPをすすめる会 代表 木村 里美	昼 食	13:00～15:50 CAPプログラム, 大人ワークシ ョップ 【演習】 北海道CAPをすすめる会 代表 木村 里美		～16:10 研修の まとめ
【3日目】 7/25 (火) ※公開講座② [弘前市民会館]	10: 30～ 受 付	10:40～ オリエンテーション	11:00～12:30 軽度発達障害の理解と対応 【公開講座②】 筑波大学大学院 教授 宮本 信也	昼 食	13:30～15:30 軽度発達障害の理解と 支援 【公開講座②】 筑波大学大学院 教授 宮本 信也		～16:00 研修の まとめ

<p>【4日目】 7/26 (水) ※公開講座③ [武道館]</p>	<p>受付</p>	<p>9:40～ オリエンテーション</p>	<p>10:00～12:00 子ども虐待の理解と対応</p> <p>【公開講座③】 大阪大学人間科学部 助教授 西澤 哲</p>	<p>昼 食</p>	<p>13:00～15:00 子ども虐待をどう理解し 支援者としてどう対応す るか</p> <p>【公開講座③】 大阪大学人間科学部 助教授 西澤 哲</p>	<p>16:00 グループ 討議</p>	<p>～16:10 研修の まとめ</p>
<p>【5日目】 8/17 (木) ※公開講座④ [武道館]</p>	<p>受付</p>	<p>9:40～ オリエンテーション</p>	<p>10:00～12:00 忘れ去られた生活習慣病</p> <p>【公開講座④】 国立病院機構仙台医療セン ター 小児科医長 田澤 雄作</p>	<p>昼 食</p>	<p>13:00～15:00 子どもの心の発達そして 「心の起源」 ～子どもたちに心のワク チン「メディア・ワクチン 」を！～</p> <p>【公開講座④】 国立病院機構仙台医療セン ター 小児科医長 田澤 雄作</p>	<p>～ 16:00 グループ 討議</p>	<p>～16:10 研修の まとめ</p>
<p>【6日目】 8/18 (金) ※公開講座⑤ 機多目的ホール あびる</p>	<p>受付</p>	<p>9:40～ オリエンテーション</p>	<p>10:00～12:00 青少年の問題行動の背景と その理解</p> <p>【公開講座⑤】 京都女子大学発達教育学部 助教授 廣井 亮一</p>	<p>昼 食</p>	<p>13:00～15:30 青少年の問題行動への対応</p> <p>【公開講座⑤】【シンポジウム】 コーディネーター 京都女子大学助教授 廣井亮一 シンポジスト ・弘前児童相談所 児童心理士 浅田英輔 ・弘前警察署生活安全課 課長 藤沢 明 ・中泊町立小泊中学校 校長 近藤 将造</p>	<p>～16:00 研修の まとめ</p>	
<p>【7日目】 9/7 (木) [武道館]</p>	<p>受付</p>	<p>9:40～ オリエンテーション</p>	<p>10:00～12:00 グループの中での人間関係 の理解①</p> <p>【講義・演習】 青森明の星短期大学 教授 大友 秀人</p>	<p>昼 食</p>	<p>13:00～15:30 グループの中での人間関係の理 解②</p> <p>【演習】 青森明の星短期大学 教授 大友 秀人</p>	<p>～16:10 研修の まとめ</p>	
<p>【10日目】 9/29 (金) [弘前市民会館]</p>	<p>受付</p>	<p>9:00～ オリエンテーション</p>	<p>10:00～12:00 解決志向ブリーフセラピー の考えとその方法①</p> <p>【講義・演習】 弘前大学教育学部 助教授 柴田 健</p>	<p>昼 食</p>	<p>13:00～15:30 解決志向ブリーフセラピーの考 えとその方法②</p> <p>【講義・演習】 弘前大学教育学部 助教授 柴田 健</p>	<p>～16:10 研修の まとめ</p>	
<p>【11日目】 10/12 (木) [武道館]</p>	<p>受付</p>	<p>9:40～ オリエンテーション</p>	<p>10:00～12:00 参加型学習の運営と実際①</p> <p>【演習】 参画文化研究会 事務局長 北崎 恵理</p>	<p>昼 食</p>	<p>13:00～15:30 参加型学習の運営と実際②</p> <p>【演習】 参画文化研究会 事務局長 北崎 恵理</p>	<p>～16:10 研修の まとめ</p>	

<p>【13日目】 11/1 (水) [武道館]</p>	<p>受付</p>	<p>9:40～ オリエンテーション</p>	<p>10:00～12:00 家庭教育のもう一つの視点 【講義】 青森テレビ報道制作局 放送部 部長 川口 浩一</p>	<p>昼食</p>	<p>13:00～15:30 ネットワークを活かした活動プログラム の開発① 【講義・演習】 弘前市民会館 館長 田中 弘子</p>	<p>～16:10 研修の まとめ</p>	
<p>【16日目】 11/16 (木) [武道館]</p>	<p>受付</p>	<p>9:40～ オリエンテーション</p>	<p>10:00～12:00 ネットワークを活かした活動 プログラムの改善・発展 【演習】 弘前市民会館 館長 田中 弘子</p>	<p>昼食</p>	<p>13:00～15:30 活動プログラムから学ぶ家庭教 育支援のネットワーク 【講義】 弘前市民会館 館長 田中 弘子</p>	<p>～16:10 発表 準備</p>	
<p>【17日目】 11/28 (火) ※ [青森県総合社会教 育センター]</p>	<p>10:00～ 受付</p>	<p>10:15～ オリエンテー ション</p>	<p>10:20～12:30 【実践発表交流会】 <b>青森県子育て応援 団実践発表交流会</b> 〈発表者〉 ・平成14年度家庭教育インストラクター養成 講座 修了生 柳谷 仁美 ・平成17年度家庭教育支援者ネットワーク 形成講座 修了生 玉川 玲子 ・平成17年度家庭教育支援者ネットワーク 形成講座 修了生 浜田 祐子 ・平成18年度家庭教育支援者ネットワーク 形成講座代表学習プログラム 受講生 長谷川さなえ、三橋まりこ、川浪千賀 コーディネーター 弘前大学教育学部 助教授 小林 央美</p>	<p>昼食</p>	<p>13:30 ～14:10 【交流会】</p>	<p>14:20～15:40 【講義】 失われたものを 求めて  元小学校長 八木橋 正美</p>	<p>～15:50 研修の まとめ</p>
<p>【18日目】 11/29 (水) ※ [青森県総合社会教 育センター]</p>	<p>10:00 受付</p>	<p>9:40～ オリエンテーション</p>	<p>10:00～12:00 子どもの今日的課題から家 庭教育支援を考える 【講義】 アトム共同保育園 理事長 市原 悟子</p>	<p>昼食</p>	<p>13:00～15:00 今後の家庭教育支 援の方向性 【講義】 アトム共同保育園 理事長 市原悟子</p>	<p>～15:20 研修の まとめ</p>	<p>～16:00 閉講式</p>



### ③ 取組に至る過程での工夫した点・対処法

#### (1) 開催地区（県内3地区で開催）

平成17年度から3か年計画で、1年当たり1地区とし、3年間で県内の3地区で開催する。地区開催ということで、距離的にも受講しやすいというメリットがある。

平成17年度 三八・上北地区に在住の方対象  
八戸市主会場，1日三沢市会場，社会教育センターでの講座が2日

平成18年度 中南・西北地区に在住の方対象  
弘前市主会場，1日板柳町会場，社会教育センターでの講座が2日

平成19年度 東青・下北地区に在住の方対象  
青森市主会場，1日むつ市会場



#### (2) 長期講座及び段階的な学習プログラム構成

18日間という長期講座を家庭教育支援の考え方の醸成，専門的知識の習得，コミュニケーション能力・ネットワーク能力の育成，活動プログラム企画能力・ネットワークの実践能力の育成，子育て応援団実践発表交流会の実施というように段階的に学習可能な構成とした。その過程で，受講生自ら自分の活動や考え方を振り返り，また他の受講生等とのかかわりから家庭教育支援のあり方を再発見したり，次の活動へのステップを感じ取ったりし，講座終了後の活動への意欲向上へとつなげたいと考えた。



#### (3) 家庭教育関係機関との意見交換の場

5回の公開講座のうち1回は「シンポジウム」の形態をとった。シンポジストは，警察生活安全課職員，児童相談所職員，学校関係者である。「青少年の問題行動へどうかかわっているか，どんなかかわりが望まれるのか」についての実践発表後，コーディネーターをもとに意見交換をする場を設定した。受講生にとって各関係機関及び受講生以外の家庭教育支援関係者との意見交換の場は，これまでと違う視点から物事を考えるきっかけとなった。

#### ※受講生のワークシートから

各機関の専門性は理解できた。最後に講師の先生がおっしゃった「様々な専門機関に役割やかかわりを任せていたが，地域の一般の人々が理解し，セミプロ的にかかわる活動に広げるのはとても意味があること」という言葉を忘れずに，少しでも広げていくお手伝いをしたいと思う。

#### (4) 参加型学習・参画型学習



5回の公開講座のうち1回は「シンポジウム」の形態であるが、他4回は参集型学習である。その中で受講生同士意見交換をする場、グループ討議の場を設定した。他の日程の講座は全て参加型学習及び参画型学習の形態をとった。子育てサポーター、子育てメイト、保育園園長、

保育士、児童館職員、民生委員、スクールカウンセラー、主任児童委員等それぞれの地区でそれぞれの活動をしている受講生は、情報を交換し合う、学び合う、相談し合う、協議し合う等の一連の活動をとおして、知識や技術を得るだけでなく「自分を磨く」即ち「自分育て」をすることになる。

受講の過程では、考え方の違いから心の葛藤がみられた。そこで担当者のかかわりが大事になるが、学び合う中で多くの受講生がそれを乗り越えることができ、深いつながりを持った受講生同士のネットワークが形成された。

#### (5) 子育て応援団実践発表交流会

18日間の講座の17日目に「青森県子育て応援団実践発表交流会」を実施した。対象は、平成14年度～16年度家庭教育インストラクター養成講座修了生、17年度家庭教育支援者ネットワーク形成講座修了生、県内子育てサポーター、子育てメイト等各地区で家庭教育支援活動を行っている人及び関係機関職員である。



実践発表として、家庭教育インストラクター養成講座修了生、家庭教育支援者ネットワーク形成講座修了生代表から、「講座終了後どういう活動をしているか、ネットワークを活用しながらどういう活動をしているのか」の実際についての発表がなされた。18年度受講生からは、講座の後半に学習した「ネットワークを活かした活動プログラム」の発表がなされた。その後、実践発表の感想も含めて、「家庭教育支援者として大事なこと、家庭教育支援者として目指すところは」などについて、意見交換を行った。午後の日程は、手作りの名刺を作成し、名刺交換を行い、講義で終了した。

16日間学び続けてきた受講生にとって「子育て応援団実践発表交流会」は、他地区の家庭教育支援者や家庭教育インストラクター養成講座修了生、そして各関係機関職員との交流の場となった。また、他の家庭教育支援者にとっても情報交換をすることであらたなネットワーク形成のきっかけづくりの場ともなった。

#### (6) 講座終了後の連携

本講座終了後、修了生のその後の活動状況について調査し把握することはもちろんのこと、修了生名簿を各市町村教育委員会に送付し、修了生に対しての今後の支援をお願いしている。

また、「ネットワーク支援カード」の冊子を修了者に配付し、修了生自ら連絡を取り合い、活動の活性化につながるような支援に努めている。

#### ④ 連携した取組の成果

(1) 本講座の企画、内容、講師等については、ほとんどの受講生から満足だとする意見が出されている。

##### ※受講生のワークシートから

- ・講師、内容等すべてに満足している。日々問題が生まれる現場に即、応用できる有意義な内容で感動した。
- ・この講座は、「人材を育てる」「人を育てる」のにととてもとてもよい内容だと感じた。
- ・どの講座もとても勉強になった。それが自分だけの満足だけでなく、広くみんなに伝えていければ良いと思っている。
- ・高齢の私にとって参加すること自体にためらいがあったが、受講生のみなさんより元気をいただいたこと、どの講座にも発見や感動を得ることができたことなど大変満足している。このような企画は、是非毎年続けてほしい。
- ・講座で学んだことにより自分の子どもだけでなく、地域やいろいろな場所に関わる時にとっても役立っていく内容だと感じている。



などである。

本講座で学んだことにより、発見や感動のほかに知識として自分が得たことを伝えたい、地域に役立てたいという感想も多くあり、18日間の講座終了後も、その意欲は継続し続けることを強く感じている。

(2) 折り返し地点のアンケート（9日・10日用）と、最終日用のアンケートを比較すると、前半のアンケートでは、自分の学びや学ぶ楽しさに満足す

るなど、個人的な見解に留まっているのに対し、最終アンケートでは、ネットワークの重要性に気づいたり、講座全体を分析したりするなど、視野の広がりが見られる。

さらに学習内容を自分の活動や地域にどのように活かしていったらよいのかなど、地域の実態を踏まえながら深く考えることができるようになってきているなど変化が伺える。

これは、本講座の段階的な学習プログラムが及ぼす効果だと考える。つまり、18日間の前半は専門的知識の習得の場を中心とし、後半は、それらの専門的知識を活かしながら地域に根ざしたプログラムの企画・展開・評価をする中で受講生同士の考えや気持ちがぶつかり合う場が中心となる。



さらに、「子育て応援団実践発表交流会」や支援者同士の交流会を設けるというように、知識を習得することから自ら参加する、意見を出し合う、体験し合う場を取り入れた構成となっている。そこから上記のような変化や地域に対する強い気持ちも生まれてくるものと考えている。これも、18日間という長期の講座だからこそ得られるものである。

(3) 本講座の目的であるネットワーク形成の重要性に、受講生自ら気づき、実践しようとする意欲が感じられるのは最大の成果である。

#### ※受講生のワークシートから

・支援は、子どもが地域の中で自ら育つ力を引き出すこと、親が自分の足で自立するように力を貸すこと、そして「子どもは地域の宝」という思いを伝えながら、人権を尊重することだと思ふ。この講座で得たネットワークを大切にしながら、実践していきたいと思ふ。



- ・支援者同士のネットワークがあると、いろいろな形で支援ができることに気づいたと同時に、支援する側とされる側とのネットワークコミュニケーションの大切さにも気づくことができた。
- ・振り返ってみると、たくさんの出会いがあった。学習することもネットワークづくりも自分自身が自発的に関われるかどうかで変わること気づいた。これから積極的に活動していきたい。



- ・受講したことを自分自身に、そして子育て支援を通じてのまちづくりに活かしていきたいと思う。

などの記述を見ても受講生同士の気持ちのつながりはもちろんのこと、学んだことをもとに協力し合いながら子育て支援に、そして地域に活かしたいという強い気持ちを感じられる。気持ちの強いつながりを得ることで、学習に対する自信が生まれ、地域での実践意欲も増したものとする。



各地区において同じような内容で講座を実施しても、学び方の違いや考え方の違いは生じてくるものである。そのため、県内で家庭教育支援活動を行っている方や各関係機関の方が実践発表や意見を交換し合ったり、交流し合ったりする場「子育て応援団実践発表交流会」は、本講座の目的を達成するためにも有効な場であると感じている。

## ⑤ 連携した取組の課題

(1) 本講座の学習内容に満足し、受講生同士の気持ちのつながりを感じ取り、関係者や関係機関と協力しながら地域に活かしたいと高い意欲をもっている受講生が多い。

しかし、受講生の中にはこれまでの活動がうまくいっているとはいえない受講生もいる。意欲だけに終わらず、うまく活動していくことができるよう、受講生や関係機関との連携を密にしながら進めていく必要がある。

(2) 「この講座を、もっと多くの人に受講してほしい」という意見は毎年ある。各教育事務所、各市町村教育委員会等の関係機関の協力を得ながら、各地域へ出向き講座のよさをアピールし、実際、家庭教育支援を行っている方、興味のある方など多くの方に参加してもらうことができるよう、周知の仕方を工夫し徹底する必要がある。

## 5 今後の方向性や展望

本講座の修了生が今後、連携・協力し合いながら、各地域で歩み続け、地域に根ざした支援活動を継続してほしいと思っている。そのため、今後の講座の構成及び内容の吟味や見直しが必要であることは当然のことだが、受講生の今後の活動状況によっては、何らかの支援を講じる必要性を感じる。

家庭教育が抱える課題として、

- ・ 家庭や地域の教育力低下の指摘
- ・ 急速に進む少子化傾向に対する人々の不安
- ・ 子育てに喜びを見い出せず不安や苛立ちを強める親の増加
- ・ 誘拐・少年非行によって引き起こされる事件等の増加

などが上げられ、現在、なお進行している。

そのため、家庭教育支援者の役割、活動等はさらに重要なものとなってくる。本講座は19年度で終了予定であるが、20年度以降もこれまでのように家庭教育支援者の養成やサポートは必要であり、さらには、家庭教育支援者、子育て当事者、そして、地域住民参加によるまちづくり、つまり、「子育て」を地域全体の課題として捉え、子どもと大人の新しい関係を育み、ともに子どもの育ちを支え合うまちづくりを目指した家庭教育支援の充実の必要性を強く感じている。

## 6 担当者連絡先

青森県総合社会教育センター

〒030-0111 青森市荒川字藤戸119-1251

電話017-734-9890